

こども新聞
週刊

がほピョンプレス

毎週日曜発行
2025 6/29

河北新報社 TEL.022-211-1111(月曜から金曜)



きょうのテーマ

みんなの将来

みんな動こう

みんな知りたい

みんな守ろう

みんなトモダチ

あなたの隣の
外国人

働く人が不足している宮城県の水産業を外国人が支えているよ。同県石巻市に住むインドネシア出身の漁師カシワンさん(34)はその1人。女川漁港(宮城県女川町)を拠点にする船に乗り、底引き網で魚を取っているんだ。

カシワンさん(34)

インドネシア出身／漁師

カシワンさんはほぼ毎日、午前3時に女川漁港を出港する船に乗ります。1日4回、網にかかった魚を船に引き上げ、種類や大きさによって選別するのが主な仕事です。



女川漁港に戻るのには午後6時。家に帰るときにはくたくたですが、「生まれたのは、漁業が盛んなインドネシア西ジャワ州インドラマユです。子どもの頃から海に親しみ、釣りをして遊んでいました。2009年に地元の水産高校を卒業し、研修生として石巻に来ました。漁師の方言が研修で学んだ日本語と違い、戸惑ったそうです。少しずつ日本の生活に慣れてきた11年、東日本大震災が発生しました。

震災を体験
水産業の力に

底引き網で取ったタラを見せるカシワンさん＝今年3月、宮城県沖(本人提供)



インドネシア大使館が帰国希望者をバスで迎えに来ましたが、カシワンさんは「こんな大変なときに帰れない。自分も何かになりたいたい」と石巻市にとどまりました。

船会社の社長の家に泊まり、海中のがれき撤去などを手伝いました。「社長の家族がご飯を作ってくれたり、洗濯をしてくれたり優しく接してくれました。あの時のことは絶対に忘れられません」と振り返ります。

12年に研修期間が終わって帰国した後も何度か来日し、22年6月から「特定技能1号」の在留資格で滞在しています。しかし、これは最長で通算5

年という在留期間が決まっています。もっと長く日本で暮らすには「特定技能2号」の在留資格を取得しなくてはなりません。「今は仕事が終わった後も、資格取得に必要な日本語能力試験の勉強をしています。なかなか覚えられなくて、頭の中が漢字だらけです」と、眠い目をこするカシワンさん。早く資格を取って、趣味のサッカーを心置きなくできる日を楽しみにしています。

この日 何の日

◇7月5日(土) 明治日本の産業革命遺産登録10周年
2015年のこの日、明治時代の産業革命を支えた福岡など8県23施設が世界文化遺産に登録されました。東北では、現存する日本最古の洋式高炉跡の橋野鉄鉱山(岩手県金石市)が構成資産になっています。

きょうの紙面

- 2面 ニコ☆プチモデルと体験!
- 3面 3分チャレンジ
- 4・5面 わが校わがまち スクール通信
- 6面 キホンがわかる こども英語
- 7面 投稿特集
- 8面 先生、教えて!